



読書の秋 新着図書よりおすすめの本

「星落ちて、なお」 澤田瞳子

江戸時代の絵師、河鍋暁斎の娘のとよの物語。暁斎の死によってこれまで河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。父の影に翻弄され、明治から大正を駆け抜けた女絵師の一代記。

直木賞受賞

「黒牢城」 米澤穂信

「おぬしならばこの曲事を解ける」本能寺の変より四年前、天正六年の冬。織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠った荒木村重は、城内で起きる難事件に翻弄される。動揺する人心を落ち着かせるため、村重は、土牢の囚人にして織田方の軍師・黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか。

第165回 芥川賞・直木賞

芥川賞

石沢麻依「貝に続く場所にて」

李琴峰「彼岸花が咲く島」

直木賞

佐藤究「テスカトリポカ」

澤田瞳子「星落ちて、なお」

★芥川賞の2作はこれから入る予定です

図書館の利用について



感染症対策
ご協力を



開館日: 月～金の平日

(土・日・祝日および学校行事がある日は閉館)

開館時間: 8:15～18:30

放課後自習のための利用ができます

注意: 17時以降は学校内から出入りしましょう
(図書館建物の玄関は17時に閉まります)

「スマホ脳」 アンデシュ・ハンセン

スティーブ・ジョブズはなぜわが子にデジタル・デバイスを与えなかったのか。睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存—スマホの便利さに溺れているうちにあなたの脳が蝕まれていく・・・スウェーデン発の世界的ベストセラー。

「どうしても頑張れない人たち」

ケーキの切れない非行少年たち2」 宮口幸治

「どうしても頑張れない人たち」。彼らはサボっているわけではない。頑張り方がわからず、苦しんでいるのだ。困っている人々を適切な支援につなげるための知識とメソッドを児童精神科医が説く。

「ヒトコブラクダ層ぜっと 上・下」 米澤穂信

貴金属泥棒で大金を手にした三つ子の前に、ライオンを連れた謎の女が現れたとき、彼らの運命は急転する。わけもわからず向かわされた砂漠の地で三つ子が目撃する驚愕の超展開とは？

芥川賞・直木賞ってなに？

芥川賞・直木賞ともに1年に2回、1月と7月に発表される**文学賞**です。

この2つの賞は「文藝春秋」創設者の菊池寛によってつくられました。

菊池寛の友人の芥川龍之介と直木三十五(なおきさんじゅうご)の功績を称え、

そのまま二人の名が賞の名前となりました。

芥川賞は新人、直木賞は中堅からベテランの作家が選出されるといわれています。

菊池さん



芥川さん



直木さん

